



学校だより

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
- 「徳」 自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
- 「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
- 「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
- 「開」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和5年1月31日
横浜市立菅田の丘小学校
校長 若山 京子
2月号
[如月 February]

豊かなスポーツライフ

校長 若山 京子



今年もプール門の脇に立つ老木に小さな赤い梅の花が咲きました。朝、厳しい寒さに体を丸め縮こまって歩いてくる子どもたちも、ふと見上げた先に花を見つけ、笑顔がほころびます。待ち遠しい春まで、もう間もなくです。

寒い日が続く1月でしたが、体力づくりの取組としてブロック学年毎の長縄集会を行いました。

クラス全員で3分間長縄跳びにチャレンジし、跳んだ回数を数えます。コロナ禍の最も状況が厳しい頃には、呼気や間隔の狭さに配慮し、実施を避けていた長縄跳びですが、今回は事前の健康観察や前後の手洗い等、感染予防対策を徹底し、とても久しぶりに実施しました。長縄集会に向けて、休み時間や体育の授業の際に、みんなで練習に取り組んだクラスもありました。みんなで目標を達成するためにうまく跳ぶ作戦を考えたり、苦手な子に跳ぶタイミングを教えてあげたり、引っかかっても「ドンマイ」と声をかけたり、長縄跳びの取組は、体力向上だけでなくクラスの団結力や子どもどうしの温かい関わりを育むことにもつながります。長縄集会では回数多く跳んだクラスに、周りからは「すごいね」と称賛の拍手がわき、子どもたちはとても嬉しそうでした。

昨年末に2022年の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果がスポーツ庁から公表されました。体力合計点は小中学校の男女共に2008年の調査開始以来、最低を更新し、特に持久力は大きな落ち込みだということです。体力低下の要因については、新型コロナウイルスの流行によって屋外での活動が制限されたこと、マスク着用が常態化して激しい運動を控える子どもが増加したことなどが影響している、とスポーツ庁は分析しています。コロナ以前から、スマートフォンやゲーム機などの視聴時間増加による生活リズムの乱れや、運動習慣の減少による子どもの体力低下は深刻な問題とされていました。

休み時間の子どもたちを見てみると、比較的、低学年は校庭を走り回ったり鉄棒で遊んだりする子が多いのですが、高学年になるほど、外に出て遊ぶ子が少なくなっています。体育の授業を楽しみにする子も高学年になるにつれ減少していることも課題に感じています。学習指導要領の体育編では、運動に親しみ生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実現できるようにすることが重視されています。学校生活において子どもたちが体を動かすことは楽しい、心地よいと感じることができるよう、体育の学習をはじめ日々の教育活動を改善し工夫してまいります。

1月の最終日曜日には、3年ぶりに菅田地区自治連合会と菅田地区スポーツ振興会主催の「菅田町健康マラソン大会」が開催されました。本校の児童も大勢参加しました。子どもたちは頬っぺを赤くしながら畑が広がる緑の多いコースを走り、気持ちの良い汗を流していました。1月中旬には、本校の地域コーディネーター主催の「親子ランニング教室」が行われ、参加した子どもたちは、実業団チームで活躍されたご経験のある池上小学校出身の齋藤俊平太さんに走り方の指導を受けました。子どもたちの運動の機会を設け、開催にあたってご尽力いただいた主催者の皆様方に心より感謝申し上げます。

子どもたちに運動をする習慣を身に付けさせるためには、学校だけでなく、家庭、地域の力が必要不可欠だと感じています。アフターコロナを見据え、子どもたちの体力向上、豊かなスポーツライフの実現を目指し、学校、家庭、地域で、今後も運動機会を確保できるよう協力してまいりましょう。どうぞよろしく願いいたします。

